

平成 30 年度 第 3 回日進市男女平等推進審議会議事録（詳細版）

日 時 平成 31 年 2 月 26 日（火）午後 6 時 30 分～8 時 30 分
 場 所 市役所南庁舎 2 階 第 5 会議室
 出席委員 中島美幸、可児康則、吉田真砂、山本真理子、蛭牟田弘樹、安形典子、
 水谷有志、福田有輝、原真理子、菅沼成明、水藤芳枝（敬称略）
 欠席委員 無
 事務局 岡部功（市民協働課長）、森部江美（同課共生共同係長）、
 武田祐子（同係主査）
 傍聴の可否 可
 傍聴の有無 無
 協議事項等
 (1) 男女共同参画に関する市民意識調査について
 (2) にっしんの表現指針について
 (3) その他

議事及び発言内容

発言者	内 容
	1 開会
事務局	開会を宣す。
	2 あいさつ (市民協働課長)
事務局	以降の議事の取り回しを会長に依頼。
会長	傍聴者の確認。
事務局	傍聴の申し出無し。
会長	次第に沿って進行。
会長	議題(1) 男女共同参画に関する市民意識調査について
事務局	本市男女共同参画関連事業は、日進市男女平等推進プランに基づき実施。第 2 次プラン計画期間は平成 3 2 年度まで。第 3 次プラン策定の資料とするために、平成 3 1 年度に男女共同参画に関する市民意識調査を実施。 ○ねらい ①時代の流れや本市の特色をつかむ。 ②前回の意識調査（平成 1 7 ・ 2 1 年 ・ 2 6 年度）からの変化の把握と内閣府などの調査との比較を行う。 ○対象 満 2 0 歳以上の市民、2, 5 0 0 人（女性 1, 2 5 0 人、男性 1, 2 5 0 人） 住民基本台帳からの無作為抽出。

○配布・回収方法

郵送。

○実施期間

平成31年7月頃配布、回収期限は3～4週間後を予定。

○今回の調査票の内容について

データの比較・蓄積という観点から、前回（平成26年）の調査票と同じ設問で、新たに調査が必要な内容は選択肢として追加。

○分量

現在の設問数（32問＋個人的質問8問＝40問）、20頁程度を予定。

○集計・分析

単純集計、クロス集計と内閣府調査（平成28年度）や前回（平成26年度）調査のデータ等と比較検討。分析時、カイ二乗検定を実施。結果は報告書としてまとめ、広報やHPなどで周知し、平成32年度の第3次プラン策定時のデータとして活用。

○各設問について（追加・変更箇所）

問18

選択肢1「男の子、女の子と区別せず同じように育てたほうがいい」→「その子の個性を活かして」「その子の素質に合わせて」という意味合いの表現に変更したい。

問27

啓発を兼ねて「モラルハラスメント」「マタニティハラスメント」についての説明を追加。

問29

言葉の理解度を測る設問「あなたは次にあげる言葉を知っていましたか」

選択肢 1 知っていた 2 聞いたことはあった 3 知らなかった
→1 意味・内容も知っている 2 聞いたことがある 3 全く知らない
「知っていた」の度合い確認のため表現を明確にしたい。

また、LGBT（性的マイノリティ）についての選択肢を追加。

F1 性別確認の設問

性的マイノリティの方への配慮で、「自身が思っている性」にチェックしてもらうような表現とした。

選択肢について、女・男に加え、「その他」をつけるかどうかご検討いただきたい。LGBTの設問もあるため、設ける方向もある一方、おそらく「その他」の回答数が少なく分析ができないので、女・男の表記のみにすべきか。

F2 年齢確認の設問

調査対象年齢を満20歳以上から18歳以上と引き下げるかどうかご検討いただきたい。この調査の初回実施から満20歳以上で調査を実施。

	また18、19歳は学生が多く、学生時代は「男女は平等だ」という感覚が強いと思われる。設問には社会における「男女平等」の質問が多くあり、今までの蓄積データとの比較が大きく変わる可能性がある。一方、選挙権が18歳になったことで、今後を見据えて今回変更する方法もあるかと思う。
会長	長久手市は今年度意識調査を行い18歳以上で調査したかと思う。投票できる年齢ということで大きな議論にはならなかった。
会長	性別については、「LGBTという言葉を知っているか」を問う設問もある。自認する性を記入するということだが、女・男以外に記入する人数は多くはないと思う。時代の流れもあるし、性的マイノリティを認めていこうという動きもある。
会長	懸念は、集計がこれまでのようには収まらないということくらいなのか。
事務局	グラフにはなりにくいので、表に記載する形かと思う。
会長	どちらの性にも属さないという市民にこのアンケートが届いて、「女・男」欄しかない、その疎外感は大いなのでは。「その他」という表現が適切かどうかは別として、女・男と規定しない項目があると自分の存在が記入できるので、大きなことかと思う。
委員	「その他」という選択肢には違和感がある。3をつくるのが、難しいと思う。丸をつけないという選択もあるのでは。
委員	「その他」という表現だと、余計疎外されたように感じられるのでは。
会長	「どちらでもない」や「第三の性」は世界の国によっては認める場合があるが、その表現は難しい。
委員	自認する性を回答するというので、女・男以外を自認されているのであれば回答を選ばないのではないか。無理した名称を入れると、かえっておかしくなるような気もする。
会長	「答えない」というところでしょうか。
委員	LGBTなどの方がいるということを知ってもらうということも必要。
会長	次回までに、他自治体のアンケートを参考で調査してもらいたい。
委員	「いずれにもあてはまらない」では表現的に弱い。
委員	「決められない」はどうか。「その他」は疎外感がある。
事務局	瑞浪市では、1女性 2男性 3その他となっている。その他には自由記載欄として()がある。※として性的マイノリティの方を考慮した選択肢だと付記。戸籍上の性別ではなく、自身の主観で記入するよう書かれている。
会長	戸籍上の性別を記載しなくてもよいというのはいいかもしれない。また、回答する全ての人に考えさせる余地も生まれると思う。
会長	3番目の選択肢をつくらうという方向で議論は進んでいるが、表現が見つからないという状況。今日出たものを案として検討願いたい。
事務局	4月の審議会に決定したいと考えている。それまでに、事務局もいくつか案を提示できるようにしたい。

会長	選択肢をつくっても余計に疎外感を招いては意味がないので、検討が必要。
会長	年齢についてだが、18歳以上と年齢を下げても、対象数は多くはないと思う。一般的な傾向として、20代は割と固定的な男女観を持っているという結果が出ている。家庭を持つ年齢や実際に働いている年齢の方が実社会の不平等を感じる傾向の回答となる。
副会長	今まで20歳以上にしてきた基準が、「有権者が20歳以上だから」であれば下げるべきだし、「成人が20歳だから」であれば、法案は通ったが施行されていないので、20歳以上でいいと思う。問題は基準が何であったか。なぜ今まで20歳以上であったのか。
事務局	成人年齢で区切っていたと考えています。
副会長	そうであるならば、今回の対象は20歳以上ではないか。まだ法律が施行されていないのだから、引き下げは時期尚早だと思う。
会長	この意識調査の次回は5年後になる。その間には成人年齢も18歳になると思う。若い世代がアンケートに参加して考える機会が持てれば、それだけ意識が早まるため、今回の調査から対象を18歳以上でも構わないと思う。
副会長	単純に、その年齢にする合理的な根拠があればそれでよいと思う。
会長	18歳以上となると大学生も対象となる。
副会長	高校生も対象。無作為抽出なので除外できない。高校生が回答した場合、影響があるかということになる。
会長	職業欄など含め、影響がある。
副会長	こちら事務局に調べていただきたい。
副会長	「男女平等」を「男女共同参画」に直しているが、何か意味があるのか。
事務局	最初に本市プランを策定したときは「男女共同参画」プランであったが、バッシングがひどい時期があり「男女平等推進」と名称が変わった。そのころ名古屋市も「男女平等推進」に変わったので、それを参考に本市も「男女平等推進」にしたと聞いている。
会長	逆ですね。バッシングを受けて立とうとしていたのが名古屋市だった。
副会長	日進市の条例を策定するときに委員だった。策定時も事務局側は「男女共同参画」を提案された。審議会側としては、名古屋市も「平等」を使用しているし「共同参画」はわかりにくいので、あえて「男女平等」にした。力をいれて「男女平等」として策定し、日進市の個性を打ち出した条例にしているので、全部共同参画にしてしまうのは残念。
会長	名古屋市は「男女平等」と「共同参画」を両方進めていくと、国の言う男女共同参画になるという考え。平成11年公布・施行の男女共同参画社会基本法も、もともと男女平等という言葉が入っていた。ところが、国会で「男女平等」という言葉に反発する議員が多く、「共同参画」というあいまいな法律名になった。名古屋市は除かれた「平等」という言葉を残そうとし、あえて「平等参画」という言葉にした。現在でもその考えで職員研修などを行っ

	ている。男女共同参画社会基本法に類する外国の法律は、「性差別禁止法」などの直裁な言葉。女性差別撤廃条約が元であり、女性に対する差別の禁止が重点だが、その点が日本はあいまい。
副会長	平成17・21・26年度は条例で定めたとおり「男女平等」という文言でアンケートを行った。今回変更すると、そのこと自体が何らかのメッセージ性を帯びてしまう。それは日進市の男女平等や男女共同参画が後退したような印象を与えかねない気がする。
会長	条例の名称には平等が入っている。整合性という点からプランも「平等」がいいのでは。市民の中で戸惑う方もいるかもしれないが、説明すれば理解していただける。今一度名称については事務局で確認していただきたい。
会長	全国的なバッシングは、日進市の条例策定あたりか。
副会長	日進市の条例を策定している時に、他自治体で復古的な条例ができていた。ちょうどバッシングが起きていた時期に作っていたので、あえて平等とした。
会長	平成7年第4回世界女性会議（北京）の頃、日本でもジェンダー平等の機運が高まった。その流れで平成11年に男女共同参画社会基本法が国会を通過。しかし、通過後にその法の持っている威力に怖気づいたのか、日本のある種の家庭のあり方を壊すのかという声が国会の中から挙がり、行き過ぎたジェンダー平等だという全国展開があった。その際、国の男女共同参画基本計画のジェンダーの定義がトーンダウンしたり、揺り戻しがあったりと、2000年代入ってすぐは、バッシングの時期があった。しかし現在は状況が変わり、人口減少の歯止めが利かず、労働力人口は減少の一途のため女性活躍を推進している。女性の社会進出という点では、揺り戻しはもうないと思う。
副会長	学校教育の道徳などの教材では、揺り戻し的なものもでてきている。この時期に、後退させるイメージを出すことが心配。
会長	特に日本の場合は、家族とそこに占める女性の役割を巡る部分大きい。諸外国の識者は、家族に期待しすぎると、家族が壊れていくと警鐘を鳴らしている。例えばフランスでは育児・介護は社会全体が担うので、個人が背負いすぎることはない。日本の場合は、家族で担うべきという考えが強い。
会長	性別・年齢・男女共同参画への置き換えの3点については、事務局でご検討いただきたい。
副会長	モラル・ハラスメント等の説明の部分で、行為をする側とされる側の説明が混在。行為をする側に合わせるほうがいいと思う。
副会長	男の子、女の子と区別せず同じように育てたほうがいい→その子の個性を活かしてと変更しているが、印象のよい意味ある言葉が入るとその言葉に引っ張られて、回答結果が歪んでしまうのでは。例えば「男の子、女の子と区別せず育てたほうがいい」程度にした方がいいのでは。
会長	この設問は日進市の統計の大きなポイントだと思う。前回の統計では、こ

	<p>の設問（子どもの教育は性別で区別するか）の回答は「しない方がよい」と「した方がよい」「どちらともいえない」がほぼ1/3ずつだった。しかし、次の設問（女の子・男の子に身につけて欲しい特性）では大きく差があり、女の子には「明るさ・素直さ・思いやり」、男の子には「決断力・社会性」を期待するという回答が非常に多かった。</p> <p>こういう質問している自治体が少ないため、この2問は非常に重要な設問だと思っている。同様の質問している数少ない自治体をみても日進市と同様の結果になってしまう傾向にある。</p> <p>今年度、長久手市が同様の調査を行った。やはり、女の子も男の子も区別せず育てたほうが良いと回答しているが、身につけてほしい特性は男の子に対しては「たくましく」がとても多かった。興味深かった点は、家事能力を男の子にも女の子にも期待していないという結果。それも問題ではないかと感じる。</p>
委員	「女の子らしく・男の子らしく」の「」はいらないのでは。選択肢はなるべく同じ様な形が良いと思う。強調する必要はないと思う。
会長	(2)にっしんの表現指針について
事務局	<p>前回の審議会では、主にことば編についてご審議いただいた。今回はイラスト編（案）を加えてご審議いただきたい。</p> <p>○色についての頁 旧指針は文字だけで説明。マンガを加えて具体的に考えられるよう変更。</p> <p>○擬人化についての頁 新規追加。動物や物の見た目等のイメージで、固定的性別役割分業を仮託して表現することがあるため。</p>
会長	作者は日進市在住の方で、日進市男女共同参画4コマまんがと同じ方で個性的なイラストですね。
会長	擬人化の表現について面白いと思う。ゴリラは男、ウサギは女といった固定的でないのがいい。そう思うと、今の絵本の多くに問題があるように感じる。
会長	職業の多様性を描いたイラストで、丸テーブルに付いたような表現で天地が逆さまの人がいるのが少し見づらいように感じる。
事務局	地球に全員乗っているようなイメージ。作者の意図は平等に地表に立てるようにといった感じと記憶している。
委員	地球上という表現だと人種差別の問題に関するイラストに見える。円ではなくて山なりであれば、多少見やすくなるのではないかと。
委員	右斜め上の人がどのような職業を表現しているのか分かりづらい。
事務局	スーツを着た会社員を表現。手でスーツの特徴が分かる部分が隠れている。
会長	円の下部が分かりづらい点と職業が分かりづらいイラストがある点について、ご検討いただきたい。
委員	子育てのイラストについて、ミルクを飲ませているイラストは父親、子ども

	もを抱えているイラストは母親なのか。
事務局	おむつ替えを行っている男性、子どもを抱えている女性、ミルクをあげている男性と食器を片付けている女性というように描いてある。
会長	はっきり性別がわからなくてもいいと思う。
委員	同様に、学校の場面でも性別がはっきりと分からない子どもも描かれています。これでいいということですね。
会長	見方によっては全部男の子に見えなくもない。
事務局	ボールを受けている子どもは女の子の想定。体育の場面なので、髪型をポニーテールなどに変えることは可能。
委員	しかし、髪型も自由。ポニーテールにすると、女の子は長い髪と捉えられてもいけない。
会長	かといって、女の子のポニーテールがいけないわけでもない。それぞれの個性で選べばいいこと。イラスト表現は難しく、言葉の方が表現しやすいのかもしれない。作者は大変だと思う。
会長	同じ作者の男女共同参画4コマまんがはどのような反響があったか。
事務局	平成17年度作成で、小学生全員と公共施設などに配布したと聞いている。当時の反響はわからないが、4コマまんが形式で読みやすく、今でも窓口に置いてあるこのマンガが、年齢・性別に関わらず来庁者に読まれている。今でも通用する作品も掲載されている。
会長	その他 (1) 男女共同参画4コマまんがについて
事務局	日進市では、年齢や性別に関わらず誰もが楽しみながら男女共同参画について理解を深めるツールとして、男女共同参画4コマまんが『ど～おもう?』を平成17年度に発行。社会の変化に伴い時勢に合わせた啓発資材として、新に4コマまんが『ど～おもう?2』を作成し、今年度3月に発行する予定。旧作の中でもまだ通用する作品もあるため、新作の女性の活躍や男性の家事育児、性の多様性などと併せて1冊の単行本とする。また、まんがをチラシなどに掲載し啓発資材として活用を考えている。
会長	けっこうブラックな笑いもありますね。
事務局	言葉では笑えないような内容も、まんがにすることで笑って受け取ることができると考えている。
会長	女性医師の対応がとてもドライだったという作品は、女性だから優しいとは限らないという実感がこもっている。
委員	まんががリアルだと思った。今年のバレンタインに、小学生の息子が、男の子、女の子わけ隔てなく友達にあげた。まんがとは少し違うが、今は友チョコという言葉もあり、すてきだと思った。
委員	全部読んでみたいと思った。育メンのまんがは実感がある。「お父さんに遊んでもらえていいね」というような声をかけられると、特別なことをしているように聞こえる。男性の育児が当たり前になり、育メンという言葉が必要

	なくなるといい。子どもが親に現代事情を教えるまんがあるが、自分の子どもから時代の流れを教えられるような状況になるかもしれないと思った。
委員	『ど～おもう?』の目的は何だったか。父親が育児休暇を取ったり、子育てを一段落した女性が働こうとして壁にぶつかったりするというのを読んで、どう思うかということか。ちょっとマイナスな部分が描かれていて、現実を見ているようで自信をなくしてしまうのでは。
会長	働き出した母親が元気になるようなまんがありますか。
事務局	もともと『ど～おもう?』は、「これっておかしいよね。これから変えていこう」という前向きな意味が込められている。現実が描かれてマイナスな部分が描かれている作品もあるし、中には女性が強く前向きに進んでいるように描かれている作品もある。
会長	確かにつらい状況を描いているまんもあり、現実が描かれていると思う。何年後かには笑い話になるようにしていきたい。このまんの活用方法も考えて、見る人へ問いかけることも大事だと思う。
委員	男性の育児休業がなかなか理解してもらえないというのは、あると思う。男性の「平日昼間問題」というものがあり、平日の昼間に働いていそうな年齢の男性が一人で地域を歩いていると、仕事をしていないのではと怪しまれる。4月からは働き方改革で有休5日以上取得になると、平日の昼間に男性が地域や街中にいるように変化するので興味深い。
委員	スキンケアをしている息子にしかられる大工の父親は、母親でもおもしろかったと思う。大工姿の女性というと、もう一つひねりが入っておもしろかったかもしれない。
会長	次回をもう少し間隔を空けずに出すことは可能か。加速がついて世の中が変わっていくと思うので、市民の意見を反映して一緒に創作したり、法律も変わっていくので、続編ができてもおもしろいと思う。まんがを題材に皆が集っても話題が広がり、おもしろいと思う。 カラー印刷されるのか。市内の公共施設で読むことができるか。 データの活用も検討して欲しい。
事務局	本文は白黒、表紙はカラーで印刷し、公共施設にも配布する予定。
会長	その他 (2) 次年度の国の動きについて
会長	<p>【国の動き】</p> <p>①厚労省・女性活躍推進法の施行後3年の見直し 中小企業に対しての取組を進める——行動計画策定、情報公表が義務付け 大企業についても公表項目を増やす 企業へのパワーハラスメント（パワハラ）防止措置の義務付け 取引先や顧客から著しい迷惑行為（カスタマーハラスメント）対応について 指針策定</p> <p>②文科省「次世代のライフプランニング教育推進事業」新規</p>

	<p>新年度予算案 3400 万円</p> <p>男女平等を進めるための初の小・中・高校の実態調査</p> <p>教員自身が「無意識の偏見」(アンコンシャス・バイアス)に気づくための研修</p> <p>※(2019. 1. 18 朝日「教育現場の男女格差」)</p> <p>文科省担当者「日本は政治や経済分野で、意思決定をする立場の女性比率がととも低い。背景として、学校現場で無意識のうちに、男女の役割に対する固定的な価値観が植えつけられている実態があるのではないかと。まずは、全国の中学校や高校を対象に、校長や生徒会長の男女比、進路指導などの場面で「無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)」がどのくらい影響しているかなど、実態調査をする方針</p> <p>③内閣府男女共同参画局</p> <p>次年度・男女共同参画週間キャッチフレーズ募集テーマ「学習」</p> <p>“男性も女性も、ひとりひとりが夢や希望を実現し、あらゆる分野で活躍できる社会をつくるためには、小学校、中学校、高校、専門学校、高等教育(大学、大学院等)などの各段階での学びや進路選択、キャリア教育、社会人の学び直しなど、ライフステージに応じた多様な「学び」の機会の充実が必要です。”</p> <p>④国連 SDGs「持続可能な開発目標」</p> <p>日本のランキング 156 カ国中 15 位 昨年の 11 位から後退</p> <p>特に問題 目標 5:ジェンダー平等(昨年に続き)、目標 12: つくる責任つかう責任、目標 13:気候変動(昨年に続き)、目標 14:海の豊かさ(新たに)、目標 17:パートナーシップ</p> <p>【自治体の意識調査】</p> <p>①子どもたちの意識調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北名古屋市(中学生) ・安城市(高校生) <p style="padding-left: 40px;">いずれも母数は小さいが、男子に固定的性別分業意識が強い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県可児市(小 5、中 3) 2010 年に次いで、2019 年予定 <p style="padding-left: 40px;">学校での性別分業、中学女子の自己肯定感の低さ</p> <p>②副読本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市 小中向け 改定しながら現在も ・可児市 中学 3 年 2012 年、2017 年、2019 年予定
会長	<p>次年度は、教育や学習が充実してくると思う。日進市においては、研究指定校を継続して行っている。さらに飛躍していただけると、子どもたちや近隣自治体への影響もあると思う。</p>
委員	<p>中学生女子の自己肯定感の低さは、思春期だからなのか地域差もあるのか。</p>
会長	<p>意識調査の結果にもあるように、例えば大人が男の子に対しては決断力を期待し接しており、女の子にはそうではない。メディアなども含め、子ども</p>

	<p>私たちは大人たちの発信によって自己肯定感が低くなっているのではないか。また地域差もあると考える。大人が意識を変えて子ども世代の手本となるように接する責任があると思う。</p>
委員	<p>どこに住んでいても、子どもたちには平等であってほしいと思う。</p>
会長	<p>外国の取り組みだと、例えばイギリスの「きかんしゃトーマス」。トーマスは男の子だが、準じるような女の子のキャラクターがたくさんつくられ、性別を半々にしようとしている。また、地下鉄の乗客への呼びかけも性的マイノリティの方への配慮から「Ladies and gentlemen」から「Everyone」に代わった。広告の連合会では性差別的なCMはやめようと動き出していて、ずいぶん加速している。女の子がおもちゃであそびながら、新しい領域に目覚めていくよう、ルーミネートというドールハウスが開発されている。科学的な思考が広がるよう、パーツを組み立てながらモーターやライトなどをつけて、タブレットと連動させて遊ぶというもの。日本では、女性科学者の育成という観点で、例えば名古屋工業大学では、女性の教官を採用するポジティブアクションに取り組んでいる。</p> <p>日進市は素地のある地域なので、学校現場の対応もお願いしたい。また、大人自身が何気ない子どもへの接し方などで、アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）を意識していけるかが重要だと思う。</p>
委員	<p>先日、言葉が変わっていくのは時間がかかるときいた。女の子の一人称についての話題からだったと思う。やはり、言葉が変わるのは遅れるのか。</p>
会長	<p>若い人達は、大人が知らないような言葉をどんどん編み出している。言葉はある意味先行しているかもしれない。ただし、定着するには時間がかかる。共通に使われている言葉を変えるのは、かなり時間がかかっている。</p> <p>昨年広辞苑が改訂された。前版のフェミニズムという言葉の意味が諸外国と違いすぎるということで、インターネット上で活動している女性グループが岩波書店に提言した結果、改定された。やはり声をあげていくことが重要なのだと思う。</p>
会長	<p>他について意見を求めるが、特になし</p>
	<p>閉会 (20:30)</p>